

IEA 石油市場レポートの概要（2018年4月13日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 2018年の世界の石油需要は、150万バレル/日増加することが見込まれる（先月の予測から不変）。 O E C D加盟国の2018年の第1四半期の石油需要については、米国での寒い天候や石油化学プロジェクトの操業開始等によって、31.5万バレル/日の上方修正となった。第2、第3四半期はそれを相殺する形での下方修正となった。
2. 対照的に非O E C D加盟国の2018年の第1四半期の需要は、26万バレル/日の下方改訂となった（中国の需要が弱気になったため）。 インドの2018年最初の二ヶ月の需要は、前年比で38万バレル/日増と強い。
3. 3月の世界の石油供給量は、先月から12万バレル/日減少し、9,780万バレル/日となった（O P E C加盟国と非加盟国による減産が240万バレル/日に強化された結果）。 世界全体の石油供給量はそれにも関わらず、主に米国の生産増により1年前よりも140万バレル/日高い水準。非O P E C加盟国の供給は2018年に180万バレル/日増加することが見込まれる。
4. O P E Cの原油生産は、ベネズエラ更なる生産減やアフリカでの減少により、3月に20万バレル/日減少し、3,183万バレル/日となった。 O P E C減産協定の遵守率は163%に達した。O P E Cへの石油需要は、今年の残りの期間は3,250万バレル/日程度で推移するだろう。
5. 2月末のO E C D加盟国の民間在庫は2,600万バレル減少し、28.41億バレルとなった（これは過去5カ年平均を3,000万バレルだけ上回る水準）。 2018年第2四半期の市況がタイトだとすると、5月には過去5カ年平均に達するかもしれない。製品在庫は既に過去5カ年平均を割っている。
6. 3月にI C Eで取引されたブレント先物の平均価格は66.72ドル/バレルであり、最近では70ドル/バレルを超え、2014年12月以来の高値となっている。 中東での緊張は、O P E C減産協定の高い遵守率と合わせて、その要因となっている。
7. 2018年第1四半期の欧米の精製施設メンテナンスのピークの後、2018年第2四半期には世界の精製量は季節的な増加を迎えるだろう。 3月から7月にかけて、精製量は310万バレル増加するが、製品の供給は需要増に追いつかない。